

営農インフォメーション

水稲



～収穫に向けて、準備の確認を～

☆刈取時期の判定

刈取時期は収量・品質に大きな影響を与えます。早取りすると青未熟粒の混入割合が多く、また遅刈りすると胴割粒や着色粒の割合が多くなり、検査等級が低下しますので、適期に刈り取るよう心掛けましょう。

- ①出穂後の日数 ⇨ 早生品種で45日前後、中晩生品種で50日頃。
- ②籾の熟色 ⇨ 籾の熟色からみて緑色から次第に退色して黄白色の順に進み、籾の黄化程度が90%の頃。
- ③出穂積算気温 ⇨ 出穂後の日平均気温の積算値が、早生品種で950～1,050℃、中晩生品種で1,050～1,150℃の頃。
- ④枝梗黄化 ⇨ 通常年では主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃。

※上記4つを考慮しながら、低日照年や極端な高温年では条件が異なってくるので、注意して下さい。

☆平成23年産米の銘柄検査は、下記の品種になります。

種 類	必須銘柄	選択銘柄
水稲うるちもみ 水稲うるち玄米 (12品種)	あきたこまち	ササニシキ
	ひとめぼれ	たかねみのり
	めんこいな	はえぬき
		コシヒカリ
		萌えみのり
		ゆめおぼこ
		淡雪こまち
	でわひかり	
	秋田63号	
水稲もち玄米 (2品種)	きぬのはだ	
	たつこもち	
醸造用玄米 (6品種)	秋田酒こまち	華吹雪
	秋の精	美郷錦
	吟の精	
	美山錦	

ねぎ



～病害虫の防除に心掛けましょう～

使用時期	薬 剤 名	倍 率	収穫前日数	散布回数
さび病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収-3日	4回
	オンリーワンフロアブル	1,000倍	収-14日	3回
	ラリー水和剤	2,000倍	収-7日	3回
べと病	リドミルMZ水和剤	1,000倍	収-30日	3回
	フォリオブラボ顆粒水和剤	1,000倍	収-14日	2回
	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収-14日	2回
	フェスティバルC水和剤	1,000倍	収-14日	3回

※秋季のべと病は、稲刈り後10月上～中旬から防除し、収穫期なので、農薬の収穫前日数と散布時の飛散に注意してください。

☆軟弱徒長対策

窒素主体の追肥を続けると、軟弱徒長の生育相となります。りん酸資材を施用して、ねぎの発根を促進して生育の回復を図りましょう。

ただし、3回以上施用すると、生育が止まる恐れがありますので、それぞれの資材の施用方法を守って使用しましょう。

資 材 名	使用 方法	特徴と効果・注意事項
PSダッシュME	葉面散布500～1,000倍	高分子の亜りん酸肥料に微量要素を添加
トップスコアリン	葉面散布1,000倍	高温時の葉面散布は行わない
スーパーりん酸	葉面散布1,000倍	りん酸含量が高い濃厚なりん酸質肥料 ※カルシウム葉面散布剤との混合はできません(スイカルやハイカルック等)

☆ネギアザミウマ対策

発生初期からの防除を徹底して下さい。葉に白いかすり状の食害痕が認められたときは、できるだけ早期に防除効果の高い薬剤で防除を。また定植時や土寄せ時に粒剤を処理すると、効果的に防除を行うことができます。雑草はネギアザミウマの発生源となるため、圃場周辺の除草を徹底しましょう。

